

(様式 8)

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	BENI RAHARJO
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 ① ・ 2 項該当		
論 文 題 目 Spatial and Temporal Patterns of Tropical Forest Landscape Prioritization for Conservation Planning: A Case Study in Sultan Adam Forest Park, Indonesia			
論文審査担当者 主 査 広島大学大学院国際協力研究科 教授 中越 信和 印 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 川村 健介 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 教授 金子 慎治 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 チャン・ダン・スアン 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 教授 池田 秀雄			
〔論文審査の要旨〕 生物多様性が極めて高い熱帯林保護の目的で、インドネシアには国際的保護区の「世界自然遺産」や「ユネスコ生物圏保護区」などが、国内的保護区の「国立公園」などが設置されている。しかし、これらの保護のみを目的とする一級の保護区だけでは、同国の生物多様性や森林現存量を護ることは難しい。それは、これらの保護区では利用に制限があることと、保護区内に住民がいないことが原則で、さらに個数、面積、及び地理的にも制約があるからである。そこで、最近同国は、熱帯林を中心とする保護区で、面積的にも前記の既存保護区の規模に匹敵する「森林公園」をほぼ州毎に均一に設置した。その特徴としては、園内に集落があり、また修復が必要な生態系も含んでいることである。しかし、森林公園の管理計画は未完のままである。そこで、平均的な 1 公園を選んで、管理手法の開発をすることにした。この研究は他の森林公園の管理に役立てるためにも必要である。論文は全 8 章からなり、1 章は序論、2 章は文献精査と方法論、3 章は生物学的評価、4 章は保護を優先する手法、5 章は修復を優先する手法、6 章は森林区域別の優先手法、7 章は優先手法の最適化と感度、8 章は結論と提言である。 本論文の 1 章と 2 章の一部は査読制学術雑誌に公表されている。3 章については山火事関連部分が 7 章・8 章の一部とともに査読制国際学術雑誌に 1 編の論文として公表されている。3 章から 7 章までの 5 章分のモデルの構築とその一部の解析結果について査読制学術雑誌に 1 編の論文として公表されている。量的に貧弱だった熱帯林森林管理に関する景観生態学的研究をおこなったこと。中でもインドネシアが新設した森林公園での研究で、有用な管理用の新たなモデル化をおこなったは高く評価できる。なお、最終章で、インドネシアの多くの新設森林公園において、公園管理における保護を優先し、かつ利用や修復を可能にする手法も提案され、実用的でもある。以上、審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資格があるものと、審査委員全員で認めた。			